令和８年度下水道作文コンクール

入賞作品集



京　都　府

令和８年度 下水道作文コンクール　入賞者一覧
（京都府知事表彰）

※応募者・入賞者はすべて４年生
※五十音順、敬称略

賞	氏　名	タイトル	学校名	ページ
最優秀	でんたに　みか 傳谷　美佳	くらしを守る水を守る	長岡京市立長岡第六小学校	1
優秀	ほった　みつき 堀田　美月	洛西浄化センターのおかげで	向日市立向陽小学校	2
優秀	まげし　ゆりか 曲子　侑里香	洛西浄化センターを見学して	向日市立向陽小学校	3
佳作	うえだ　ゆうき 上田　悠喜	長岡京市を支える洛西浄化センター	長岡京市立長岡第六小学校	4
佳作	かみや　かずはる 神谷　風晴	下水を綺麗にしている仕組みと良い点	向日市立向陽小学校	5
佳作	きにわ　しの 木庭　詩乃	下水道の水がきれいになるまで	向日市立向陽小学校	6
佳作	たかの　さくら 髙野　咲良	水は生活の命	向日市立向陽小学校	7
佳作	たばた　あおい 田畑　葵	洛西浄化センターのひみつ	向日市立向陽小学校	8

※掲載した作品は、すべて提出いただいた原稿の表現のまま活字化したものです。

最優秀賞

くらしを守る水を守る

長岡京市立長岡第六小学校　四年
傳谷　美佳

わたしは、四年生の社会見学で洛西浄化センターに行きました。浄化センターのやくわりについて学びました。やくわりは大きく分けて２つあると思いました。

一つ目は、下水処理です。家庭や工場から出るきたなくて、くさいよごれた水をきれいにする事です。

まず、はじめに見たのは沈砂池です。大きいゴミや泥をとりのぞきます。ここのにおいがとてもくさかったので、今後どうやってきれいになるのかぎもんに思いました。

次に生物反応槽の説明を聞きました。活性汚泥を使ってきれいにしています。活性汚泥とは、よごれをパクパク食べる微生物がたくさん入っている泥のことです。微生物は二十種類以上いて、さんそがなくてもくらせるそうです。でも空気ふきこみます。それは、泥と水をまぜて、微生物がよごれを食べやすくさせるためです。私は微生物の種類の多さと食べやすくさせるための工夫が、一番印象に残りました。ほかにも色々な処理をして、最終的にきれいになった水を川にもどします。

最後にお願いをされました。それは、たべのこしや油っこいものやゴミは、下水に流さずにゴミ箱に入れて下さいと言われました。私もそのとおりだと思いました。

二つ目は、水から街を守ることです。地下にトンネルをほって雨水やあふれた川の水をためます。そのトンネルの名前は、いろは呑りゅうトンネルです。名前の由来は、トンネルの計画図がりゅうに、にているからだと言っていました。私はりゅうにているかどうか分かりませんでしたが、呑りゅうという名前がポケモンみたいでかっこいいと思いました。

トンネルはシールド工法でつくられます。シールドマシンの先にかたい金ぞくをとりつけて、回転させながら土をほって前にすすみます。ほった部分がくずれてこないようにセグメント（かべ）を組み立てます。このことが東京都の雨水用トンネルでも、同じことをやっているのをテレビで見ました。先にテレビで見ていたので、内容がりかいしやすかったです。

総合のじゅ業でハザードマップを使いました。水害のページで長岡京市の東の方では、よく川の水があふれやすいときました。いろは呑りゅうトンネルに長岡京市を守ってほしいと思いました。東の方の人たちはより気をつけて水害のことを知ってほしいと思いました。

今回の洛西浄化センターでの学びで、自分のできることを考えました。それは、家でも外でもゴミなどをすてないようにすることと、水のムダ使いをやめることです。町のしくみを知ることができてよかったです。

優秀賞

洛西浄化センターのおかげで

向日市立向陽小学校　四年

堀田　美月

洛西浄化センターでは、どのように下水をきれいにしているのでしょうか。勉強し始めたときは、汚れた水をび生物がきれいにしていると思いもしませんでした。

社会見学で学んだ事は七十七人が二十四時間交代で働いているという事など、たくさんあります。その中でも、とくに私の心に残った事をトップ三で発表します。

始めに三位。それは、下水の汚れをび生物が食べてくれているという事です。び生物が汚れを本当に食べれるの？食べた後は、どうなるの？と思いました。自分達が汚した水をび生物がきれいにしてくれているなんて・・・と、おどろきの気持ちになりました。

次に二位。それは、洛西浄化センターの上に、公園があるという事です。私は、幼稚園のころ、遠足で何度か公園に行った事があるのですが、そのときは公園の下に洛西浄化センターがあるのを知らなかったので、公園の下には洛西浄化センターがあります。と、聞いたとき、すごくおどろきました。でも、私はぎもんにも思いました。なぜかというと、どうして空いた上のスペースを、公園にしようと思ったのだろう？と、思いました。別に自分達の好きに、施設を建てれば良いのになと思い、洛西浄化センターの方に聞いてみると、

「みんなによろこんでほしいからです！」

と、答えてもらいました。それを聞いて、私には、みんなのために施設を作るという発想がなかったので、

「みんなの事を考えて建てられたやさしい公園だな！」

と、思いました。

最後に、第一位です。それは、び生物は酸にふれると死んでしまうという事です。下水をきれいにしてくれるび生物は、酸にふれてしまうと死んでしまうそうです。でも理由は分かりません。が、少しでもび生物が死んでしまわないよう、みなさんもぜひ酸がふくまれた水を流さないように意しきしてみてくださいね。

みなさん、洛西浄化センターのひみつを知れたでしょうか。最後に、洛西浄化センターがあるおかげでおこる良い事を三つ発表します。

一つ目は、毎日きれいで美味しい水を飲めることです。洛西浄化センターが下水をきれいにしてくれるおかげで、私達は毎日安心して水道の水を飲めます。

二つ目は、美味しい野菜や、果物が取れるという事です。洛西浄化センターがきれいにしてくれたきれいな水で育った植物は、体への害がなく、体にやさしいです。

三つ目は、町がきれいという事です。下水道がないと、町中どろや下水まみれになってしまいます。下水が下水道を通って洛西浄化センターに運ばれ、きれいにしてくれるおかげで町はいつも美しく、かいてきにすごせます。このように、私達は今、当たり前にきれいな水を使えていますが、きれいな水が使えず、きたない水を使うしかない国もあると知って、一度水の使い方を見なおして、必要以上の水は使わないよう、心がけようと思いました。みなさんもぜひ一度、今までの自分をふりかえってみてくださいね。みんな、水の出しっぱなしはダメだよ。水を出しっぱにしていないか、一回かくにんしよう！

優秀賞

洛西浄化センターを見学して

向日市立向陽小学校　四年　曲子　侑里香

みなさんは下水処理場がどんな所か知っていますか。下水処理場は水をきれいにするところです。私は浄化センターがどんなところかと知りたいと思いました。

浄化センターに行く前に先生から、

「ちょっとにおいがするかもしれないのでマスクを持っていった方がいいよ」

と言われ、ちょっと苦手かもと思いました。下水処理場に行ってみたら、きたない水の量の多さとにおいにおどろきました。なぜかというとそんなに乙訓は広いちいきではないのに、きたない水が想ぞうよりかなり多かったからです。きたない水のせいで乙訓がこわれないかと心配になるほどでした。どうしてきたない水の中で私たちが生活できているのかふしぎに思いました。浄化センターでは水をきれいにする方法ときかいについて教えてもらいました。そこで私はきたない水の中でも生きられるび生物がいることを知っておどろきました、しかも、そんなきたない水の中から、手作業で悪いび生物を取りのぞかないといけないなんて大変すぎます。私たちがきれいな水を使えるようにがんばって働いてくれている人がいます。その仕事をしてくれている人にかんしゃしたくなりました。私たちは水がないと生きていけません。昔は水がなくて亡くなってしまった人もいると聞いて水は生きていくために本当にひつようです。だからといって水を使いすぎるとみなさんが使えるきれいな水がどんどんなくなってまた問題になります。これをふせぐために私たちができることは、水をひつような分だけ大事に使うことです。むだな水を使うと使いたい時に使いたい人が使えなくなってしまうからです。もし洛西浄化センターがなかったら、私たちは生きていけません。洛西浄化センターがなかったら昔の人みたいに早く亡くなってしまう人がふえてしまいます。だから私たちにとって洛西浄化センターはなくてはならないそんざいです。洛西浄化センターの中で水をきれいにする場所は地下にあります。なぜかというと、きたない水のにおいが街にもれてしまって人がセンターの近くに住みたくなくなるからです。洛西浄化センターの地下の広さはとても広いです。その地上は公園になっています。公園にして草をたくさん生やすことできたない水のにおいもふせぐことができるそうです。また土地がとても広いので、公園にすることで子供も遊べていい土地利用になっているそうです。じっさいにお弁当を食べるときに公園に行ってみると、予想通り地下と同じくらい広かったです。そしていやなにおいもしませんでした。私は水について調べる前は水が大事ということに気づけていませんでした。水を出しっぱなしのまますごしている時もありました。今思うとすごくむだ使いをしていたと反省しています。洛西浄化センターを見学してたくさん話を聞いてこれからは働いている人に感しゃして水を大事に使いたいです。出しっぱなしにしたりきたないものをたくさん流したりするのはやめた方がいいと思いました。なぜかというと水をむだ使いしたりきたなくすると下水処理場で働いている人の仕事をふやしてしまうからです。また、きたない水をきれいに処理できる量もかぎられています。だから水を大事に使わないといけないと思います。

今回、洛西浄化センターへ社会見学に行ったことで、水を節約しないといけないなと気づきました。学校のみんなといっしょに水の大切さについてあらためて学べて良かったと思います。みなさんもぜひ洛西浄化センターを見学してみてください。そして水の大切さと使い方をしっかり学んで、水がむだにならないように気をつけながら生活してほしいです。私も水の大切さにあらためて気づけたので、水の使い方に気をつけて生活しようと思いました。

佳作

長岡京市を支える洛西浄化センター

長岡京市立長岡第六小学校　四年
上田　悠喜

ぼくは、長岡京市の町が大好きです。なぜなら、とてもステキな町だと思うからです。

まず、自然がゆたかです。長岡天満宮の桜とキリシマツツジは、とても美しく、毎年家族で花見に行きます。春には、アゲハチョウやテントウムシ、夏には、ツバメ、セミ、ホタル、カブトムシ、秋には色とりどりの葉やドングリ、冬にはカモ、スイセン、ウメなどの生き物や植物に出会えます。

次に、有名な所がたくさんあります。ほいく所の時、お散歩で光明寺やいげの山古ふん公園、勝竜寺城に何度も行きました。勝竜寺城のお堀には、こいが泳いでいてみんなと見るのが楽しみでした。このお堀の水は、洛西浄化センターできれいにされた再生水が使われているそうです。ぼくたちが使ってよごれた水がどのようにしてきれいになって、再生水となるのかを、洛西浄化センターへ見学に行き学びました。

洛西浄化センターは一日にプール五百ぱい分のよごれた水をきれいにしています。しかも二十四時間三百六十五日交代で休まず、水をきれいにしてくれています。それを聞いて、ぼくはすごいと思いました。毎日ぼくたちのために、町をきれいにするために、休まずがんばって働いていることに気づきました。

家庭や工場から流されたよごれた水が、きれいな水（再生水）になるまでには、六つの工ていがあります。

一つ目は沈砂池です。ここはよごれた水の中の砂やどろをしずめるところです。でもまだまだきたないし色は茶色でした。すごくくさかったです。

二つ目は、ポンプ室です。地下の十三メートルから、水をすい上げるところです。

三つ目は、最初沈殿池です。ここは、沈砂池で取れなかったどろや菌、ゴミをしずめるところです。沈砂池とくらべると、色はうす茶色で、においは少しだけくさかったです。

四つ目は、生物反応そうです。ここは、び生物がたくさん入っているどろ（活性汚泥）を加えるところです。び生物がよごれを食べてくれるので、水は少しずつきれになっていきます。色は、とうめいにちょっとにごりがあるような色でした。ここではにおいはしませんでした。

五つ目は、最終沈殿池です。ここは、活性汚泥をしずめるところです。色はとう明で消どくをしていますが、ノロウィルスなどが残っているので完全に浄化されたとはいえません。

六つ目は、急速ろか池です。ここは、体に無害な薬品を入れて、桂川に流します。色は無色とう明です。ここでやっと完全に水は浄化され再生水となります。

ぼくが洛西浄化センターを見学して思ったことは、よごれた水をきれいにして、桂川に流したり、勝竜寺城のお堀の水に使われたりすることで、ぼくたちのくらしや長岡京市の町を支えているんだと感じました。だからこそぼくは、水を大切に使うこと、油や生ゴミを流さないこと、食べ残しをしないことを決めました。ぼくの大好きな長岡京市が、これからも美しく、人々に愛される町であり続けられるようにがんばります。

佳作

下水を綺麗にしている仕組みと良い点

向日市立向陽小学校　四年
神谷　風晴

ぼくは、洛西浄化センターのことを凄いと思います。なぜなら、下水を綺麗にする中での事や他の洛西浄化センターがしている事を調べてみた結果、自分が良いと思う点が五つあったからです。なので、ぜひみなさんに知ってもらうためにその五つを紹介します。

まず一つ目の良いと思った点は、生物反応槽です。ここは、微生物を含んだ泥つまり活性汚泥に大量の空気を吹き込み、活性させて微生物に汚れを分解させます。そうすると、微生物が互いにくっつき合い、下水に乗って最終沈殿池へ行きます。そして大半の微生物が返送汚泥として返送ポンプで生物反応槽に返送されます。これを良いと思った理由は薬品を使う必要がなく、コストさくげんになるからです。二つ目の良いと思った点は、最初沈殿池と最終沈で出た汚泥をセメント原料に有効活用することです。そこで、汚泥からセメント原料になるまでの工程を説明します。まず、最初沈殿池と最終沈殿池で出た汚泥は汚泥濃縮タンクというところで、濃縮されます。そして、濃縮された濃縮汚泥は消化タンクで消化汚泥になり、そこから脱水機で脱水ケーキという固まりになり、固形燃料化施設でセメント原料になります。良いと思った理由はねん土をほるよりも、汚泥をセメントにしているのが有効活用できていたところです。三つ目の良いと思った点は消化タンクでのしょ理によって出た消化ガスを発電していることです。良いと思った理由はエコでＳＤＧＳだからです。四つ目の良いと思った点は生物反応槽で微生物と汚れがくっついてできた下水汚泥を固形燃料化施設で低温炭化技術という技術を使って炭化燃料に変えられ、この技術は、脱水汚泥を乾燥機で乾燥汚泥という汚泥にし、それを二百五十度～三百五十の低温でむし焼きにすることで、「高発熱量」「低臭気」「自然発火しにくい」という三つの基準を満たした石炭代替燃料を作る技術です。燃料にするしょ理の仕方は焼きゃくしてしょ理する仕方に比べて一さん化二ちっそという非常に地球に悪いガスの排せつ量が少なく大はばに削げんできます。作られた炭化燃料の元になっている植物はＣＯ２をきゅうしゅうして育つため、この炭化燃料が燃やされてＣＯ２が発生してもきゅうしゅうされるので実質的にはＣＯ２が発生しないというわけです。良いと思った理由は今述べた通り、非常に地球に悪いガスが少なくなるということ、ＣＯ２が燃やしたときに排せつされなくなることが良いと思った理由です。五つ目の良いと思った点は、この炭化燃料は火力発電所で石炭代替燃料として電気エネルギーに変換させられます。変換された電気エネルギーは一般家庭や工場に送られ、量にして約二千九百ＭＷｈ年約九百世帯分にもなります。これの良いと思った点は、これだけの膨大な電気エネルギーを一般家庭だけでなく、工場にも送ることで工場でできる色んな事に有効活用されていたところが、良いと思った理由です。

水や電気は有限で使える量が限られています。そして、世界中の人々が使えるように、このような施設が作られ今紹介したような工夫がこらされていますが、それではまだ足りません。なので、

ＳＤＧＳ

「安全な水とトイレを世界中に」

目標

「エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」

を達成できるように何かしらの取り組みをしましょう。

佳作

下水道の水がきれいになるまで

向日市立向陽小学校　四年
木庭　詩乃

わたしは、下水道の水がきれいになるまでの事を調べたり、洛西浄化センターに行って聞いたりしました。なのでその事をしょうかいしたいと思います。

これから下水道の水がきれいになるまでの事を発表します。家庭や工場からながされたよごれた水は、地下にうめてある水管を通って洛西浄化センターへ集められます。そこでまずスクリーン(鉄格子)で大きいごみを取り、そのあと、最初沈殿池でういているごみや泥をしずめて、取りのぞきます。さらに生物反応槽へみちびき微生物がたくさん入っている泥(活性汚泥)をくわえ、空気をふきこみます。活性汚泥の微生物はよごれを食べてどんどんふえ、水はしだいにきれいになっていきます。最後に、最終沈殿池で活性汚泥をゆっくりしずめ、すっかりきれいになった処理水の上ずみを消毒のうえ、ろ過して桂川にながします。取りのぞかれた泥や活性汚泥は脱水機にかけ水分をとったのち、固形燃料化施設や焼却炉で燃やして炭や灰にして、火力発電所の燃料やセメント原料として再利用します。ということを洛西浄化センターで聞いたり学んだりしました。この事を知ってわたしは、いつもの生活を思い出してふだん手洗いなどに使う水は、まずダムにたまっている水が川に流れて浄水場に行ってきれいにして家や学校に行って使った水は洛西浄化センター(下水処理場)できれいにしてその水を桂川に流して桂川に流れた水が海に行って海の水がじょう発して水じょう気になって水じょう気が雲になって雲から雨がふってきてダムにたまってまた川に流して浄水場できれいにするのをくりかえして、皆んながきれいな水を使っているんだなと思ったから、水は大切におうと思いました。みなさんに水の大切さを知ってほしいと思いました。なので、下水道を大切にする理由を発表します。浄化センターの運転などに必要な費用の大部分は使用される方の下水道使用料でまかなっています。下水道を使用される方のちょっとした気づかいが下水道を守り費用の節約につながります。たとえば台所で野菜くずや食用油を流したり、トイレで硬い紙などを使ったりしないようにお願いします。また、マンホールには、雨水が入らないようにしましょう。などのことを洛西浄化センターに行って聞きました。なので皆さんも下水道を大切にしましょうね。

皆さん下水道の水がきれいになるまでの事と下水道の大切さが伝わりましたか？水には、かぎりがあるので大切にしましょうね。

佳作

水は生活の命

向日市立向陽小学校　四年
髙野　咲良

わたしは、校外学習で、浄化センターに行きました。これから、校外学習で学んだことなどを、お話ししようと思います。

わたしが校外学習で学んだことは、たくさんあります。七十七人もの人たちが交代で働いてくれている事。水をきれいにするしせつが全て地下にあること。他にもたくさんのことを学んだので、印しょうに残ったことを三つランキングでお話ししようと思います。

まずは、第三位から。第三位は、どろを再利用している事です。どろの水分を技いた物をだっ水ケーキとよび、セメントの原料として再利用しています。

第二位は、水をきれいにする時に、水に薬を入れている事です。わはしは、水に薬を入れると、飲めなくなってしまうのではないかと思っていました。ですが、浄水場で働いている方から、相性の良い薬の組み合わせと、相性の悪い組み合わせがあるということを教えてもらいました。

最後に、第一位。第一位は、び生物を使って水をきれいにしている事です。そのび生物は、二週間ほどで死んでしまうそうです。そこでわたしは、多くのぎもんが生まれました。び生物がどんどん使われていって、この世界からいなくなってしまうと、水をきれいにできなくなり。こまるのではないか。ずっと水の中にいると、健康じゃなくなり、水をきれいにする事がむずかしくなるのではないか。などです。そこで、浄化センターで働いている方から、び生物を元気にするために、空気を入れていると教わりました。び生物がよごれた水を食べた後の水は黒い水から緑色に変わり、においもうすくなっていました。び生物は、わたし達が使った水をきれいにしてくれるありがたいそんざいだ。と思いました。日本はこのように水をきれいにするための機械などが行きとどいています。

ですが、他の国はどうなのでしょうか。それでわたしは、本で調べてみました。水は、人間が生きるには必ず必要な物です。なぜなら、人間の体は、半分以上が水でできているからです。また、食べ物や飲み物を作るにもたく山の水が必要です。ですが、安全な食べ物や飲み物を作るには、きれいで安全な水が必要です。日本では、じゃ口をひねれば、きれいな水がたくさん出てきます。ですが、他の国の一部は、水道せつびが行きとどいてないため、きれいな水がない所もあります。その国では、清けつで安全な水がないため、汚れた水が原因で、命を落としてしまう人もいるそうです。安全な水がある。という事は、世界にとって当たり前ではありません。わたしは、全部の国が安全できれいな水を使えるようになれるよう、願っています。

このように、みんなが安全に楽しくくらせるように浄水場の方がたが二十四時間働いてくれています。ですが、水もしげんなので、毎日のようにたくさんの汚水を出し続けるわけにもいきません。そこでわたしは、汚水の量を少なくするために何が出来るか考えました。考えると、二つのたいさくが思いうかびました。一つ目は、使った水を再利用することです。例えば、湯船の水をせんたくに使ったり、野菜をあらった水を食器をあらう時に使ったり出来ます。二つ目は、使う食器や、石けんの量を調せつすることです。食器や石けんの量を少なくすると、使う水の量を少なくすることが出来ます。

このように、意しきをする事で使う水の量はいくらでもへらす事ができます。かぎりのある水を大切に使いましょう。みんなで協力したら、誰かの命をすくう命の水になるかもしれません。

佳作

洛西浄化センターのひみつ

向日市立向陽小学校　四年
田畑　葵

私は、洛西浄化センターに見学に行ってよごれた水をどうやってきれいにするのかということと、他にはどんな仕事をしているのかを調べました。見学に行く前に予想をしました。そのときは、機かいで水をきれいにしたり、ちゃんときれいになっているかチェックしたりしていると思っていました。さて、洛西浄化センターでは、どうやって水をきれいにしているのでしょうか。

まず、ちんさ池に行きました。そこでは、すなをしずめてよごれをとるみたいで、はなれたところにいてもくさいぐらいにおいが強かったし水もきたなかったです。次は、最初ちんでん池に行きました。そこでは、どろやゴミをしずめてよごれをとるみたいで、そこでできたどろの水分をぬいたものをだっ水ケーキというそうです。さっきのちんさ池よりちょっとにおいがましで水もきれいかなーと思ったのですが、めちゃくちゃくさいのも、水がにごっているのもあまり変わりませんでした。その次は生物反応そうに行きました。そこで、小さなび生物(最大で1ミリメートルぐらい)がゴミを食べてよごれをとっていることを知りました。ちなみにくさいにおいはまだしていました。その他にも、わたでよごれをとったり、きんがいなくなるようにえんそで消どくしたりなど、安心して飲めるようっにいろいろな工夫がされていました。さらに、あんないしてくれた人が、さっきの生物反応そうとかの上を公園にしたってことを教えてくれました。そこで私は少し気になることがありました。さっき見た生物反応そうとかはまあまあくさかったので、そこもくさいんじゃないかと思うことです。ところが、いざ行ってみると、そこに行くまではまあまあくさかったのですが、公園まで来るとぜんぜんくさくなかったです。そこでおべん当を食べたのですが、ぜんぜん気になりませんでした。そんなたくさんのしくみがどうやってかんりされているのか、気になりませんか。それも、あんないしている人が教えてくれました。そして、どのようにかんりされているのかというと、さっき見た最初ちんでん池とか生物反応そうとかがあるところから、少し歩いたところにあるかんり室で、機かいにふぐあいはないか、ちゃんと動いているかなどを見てかんりしているそうです。その作業を二十四時間三百六十五日ずーっとやっていることを知ってびっくりしました。

当たり前に使っていた水がこんなにたくさんの人や機かいのおかげできれいになっていることを知ってびっくりしました。そして、これからは水のむだ使いをしないようにしようと思いました。みなさんも、どうしたら水をむだ使いしないようにできるか考えてみてください。